



## アラームについて

この章では Cisco Unified Serviceability のアラームについて説明します。この章は、次の項で構成されています。

- [アラームについて \(P.3-1\)](#)
- [アラーム設定 \(P.3-2\)](#)
- [アラーム定義 \(P.3-2\)](#)
- [アラーム情報の表示 \(P.3-3\)](#)
- [アラーム設定のチェックリスト \(P.3-3\)](#)
- [関連情報の参照先 \(P.3-4\)](#)

### アラームについて

Cisco Unified Serviceability のアラームは、実行時のステータスやシステムの状態についての情報を提供します。この情報を使用して、Disaster Recovery System の問題の識別など、システムに関連する問題をトラブルシューティングできます。トラブルシューティングに役立つよう、アラーム情報 (説明および推奨アクションを含む) には、アプリケーション名、マシン名なども含まれています。

アラーム情報を複数のロケーションに送信するようにアラーム インターフェイスを設定します。各ロケーションには、独自のアラーム イベント レベル (デバッグから緊急まで) があります。アラームは、Syslog Viewer (ローカル syslog)、Syslog ファイル (リモート syslog)、SDI トレース ファイル、またはすべての送信先に転送できます。1 つのサービスでアラームが生成された場合、アラーム インターフェイスから、ユーザが設定したロケーション (および、アラーム定義でルーティング リストに指定されたロケーション) にアラーム情報が送信されます (たとえば、SDI トレース)。システムは、アラーム情報を転送するか、最終送信先 (ログ ファイルなど) に書き込むことができます。



#### ヒント

リモート Syslog サーバとして Cisco Unified Communications Manager サーバを指定しないでください。このサーバは、他のサーバから syslog メッセージを受信できません。

SDI トレース ログ ファイルに送信されるアラームを収集するには、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) のトレース収集とログ集中管理オプションを使用します。ローカル syslog に送信されるアラーム情報を表示するには、RTMT の SysLog Viewer を使用します。

## アラーム設定

Cisco Database Layer Monitor などのサービスのアラームを設定できます。

サービスのアラームを設定するには、Error などのアラーム イベント レベルや、Syslog Viewer (ローカル syslog) など、システムがアラーム情報を送信するロケーションを選択します。イベント レベルを選択すると、収集されるアラームのタイプを絞り込み、Syslog およびトレース ファイルが過負荷になるのを回避できます。アラーム設定とアラーム定義の関連付けの詳細については、P.3-2 の「アラーム定義」を参照してください。

## アラーム定義

参照のために使用されるアラーム定義には、アラーム メッセージの説明、つまりその意味と回復方法が記述されます。[Alarm Definitions] ウィンドウでアラーム情報を検索します。サービス固有のアラーム定義をクリックすると、アラーム情報の説明 (ユーザが追加したユーザ定義テキストを含む) および推奨されているアクションが表示されます。

Cisco Unified Serviceability に表示される、すべてのアラームの定義を検索できます。問題のトラブルシューティングを支援するために、対応するカタログに存在する定義には、アラーム名、記述、説明、推奨アクション、重大度、パラメータ、モニタなどが含まれています。

システムがアラームを生成するときは、アラーム情報内のアラーム定義名が使用されるので、ユーザはアラームを識別することができます。アラーム定義では、アラーム情報が送信される場所を指定するルーティング リストを表示できます。ルーティング リストには、次に示すロケーションが含まれている場合があります。これらのロケーションは、[Alarm Configuration] ウィンドウで設定できるロケーションに対応しています。

- SDI : このオプションのアラームをイネーブルにして、[Alarm Configuration] ウィンドウで適切なイベント レベルを指定すると、アラーム情報は SDI トレースに送信されます。
- Sys Log : このオプションのアラームをイネーブルにして、[Alarm Configuration] ウィンドウで適切なイベント レベルを指定し、リモート syslog サーバのサーバ名または IP アドレスを入力すると、アラーム情報はリモート syslog サーバに送信されます。
- Event Log : このオプションのアラームをイネーブルにして、[Alarm Configuration] ウィンドウで該当するイベント レベルを指定すると、アラーム情報はローカル syslog に送信されます。ローカル syslog は、Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool (RTMT) の SysLog Viewer で表示できます。
- Data Collector : リアルタイム情報システム (RIS Data Collector) にアラーム情報が送信されず (アラート目的のみ)。このオプションは、[Alarm Configuration] ウィンドウでは設定できません。

[Alarm Configuration] ウィンドウに指定されたロケーションの設定済みアラーム イベント レベルが、アラーム定義にリストされている重大度以下の場合、アラームが送信されます。たとえば、アラーム定義内の重大度が WARNING\_ALARM であり、[Alarm Configuration] ウィンドウで特定の送信先のアラーム イベント レベルが [Warning]、[Notice]、[Informational]、または [Debug] (下位のイベント レベル) に設定されている場合、アラームは対応する送信先に送信されます。アラーム イベント レベルを [Emergency]、[Alert]、[Critical]、または [Error] に設定すると、アラームは対応するロケーションに送信されません。

Cisco Unified Serviceability アラーム定義ごとに、説明または推奨を追加できます。追加情報には、すべての管理者がアクセスできます。[Alarm Details] ウィンドウに表示される [User Defined Text] ペインに、情報を直接入力します。標準の横および縦方向スクロールバーは、スクロールをサポートしています。Cisco Unified Serviceability によって、情報がデータベースに追加されます。

## アラーム情報の表示

アラーム情報を表示して、問題が存在するかどうかを判別します。アラーム情報を表示するために使用する方法は、アラームの設定時に選択した送信先によって異なります。SDI トレース ログ ファイルに送信されたアラーム情報を表示するには、RTMT のトレース収集とログ集中管理オプション、またはテキスト エディタを使用します。ローカル syslog に送信されたアラーム情報を表示するには、RTMT の SysLog Viewer を使用します。

## アラーム設定のチェックリスト

表 3-1 は、アラーム設定の手順の概要を示しています。

表 3-1 アラーム設定のチェックリスト

設定手順	関連手順と項目
<b>ステップ 1</b> アラーム情報の対象のサーバおよびサービスを選択します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>アラームについて (P.3-1)</li> <li>サービスに関するアラームの設定 (P.4-2)</li> </ul>
<b>ステップ 2</b> アラームの送信先を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのサービスから、SDI ログに移動できます (ただし、トレースにも設定されている必要があります)。</li> <li>すべてのサービスから、SysLog Viewer に移動できません。</li> <li>リモート Syslog サーバに syslog メッセージを送信するには、リモート Syslog 送信先を選択して、ホスト名を指定します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サービスに関するアラームの設定 (P.4-2)</li> <li>アラームの設定 (P.4-4)</li> </ul>
<b>ステップ 3</b> アラーム イベント レベルを選択します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>サービスに関するアラームの設定 (P.4-2)</li> <li>アラームの設定 (P.4-4)</li> </ul>
<b>ステップ 4</b> 必要に応じて、アラームに定義を追加します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>アラーム定義 (P.3-2)</li> <li>アラーム定義の表示および更新 (P.5-1)</li> </ul>
<b>ステップ 5</b> アラーム送信先として SDI トレース ファイルを選択した場合は、RTMT のトレース収集とログ集中管理オプションを使用してトレースを収集し、情報を表示します。	<i>Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection</i>
<b>ステップ 6</b> アラーム送信先としてローカル syslog を選択した場合は、RTMT の SysLog Viewer でアラーム情報を表示します。	<i>Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection</i>
<b>ステップ 7</b> 説明および推奨アクションについては、対応するアラーム定義を参照してください。	アラーム定義の表示、およびユーザ定義記述の追加 (P.5-2)

## 関連情報の参照先

### 関連項目

- [サービスに関するアラームの設定 \(P.4-2\)](#)
- [アラーム定義の表示、およびユーザ定義記述の追加 \(P.5-2\)](#)
- [システムアラームカタログの説明 \(P.5-3\)](#)
- *Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection*
- *Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーションガイド*